

正しく知って
しっかり予防!

動物由来感染症

～人と動物が共に幸せに暮らすために～

人と犬や猫などのペットとの間には心理的交流が生じ、密接な関係ができることが多いものです。今回は私たちのいちばん身近にいる動物、特にペットに係わる動物由来感染症について紹介します。

動物由来感染症とは、動物から人に感染する病気の総称です。人も動物も病気になるものもあれば、動物は無症状でも人は病気になるものもあります。



世界中にはたくさんの種類の感染症があり、新しい感染症が次々と見つっていますが、ペットにかかわる動物由来感染症を過度に恐れる必要はありません。

正しい知識を持って、**動物とのふれあいルール**を守れば予防できるものがほとんどです。

動物とのふれあいルール

1. 過剰な接触を控えましょう

犬や猫が普通に持っている菌が原因となることもあるので、キスや口移し、食器の共有、一緒に寝るなどの過剰な接触は控えましょう。野生動物、知らない動物にむやみに接触しないことも大切です。



2. 手洗いを習慣にしましょう



動物は無症状でも、体に病原体がついていることがあります。知らないうちに動物のだ液、粘液や傷口に触ってしまうこともあるので、動物に触ったら手を洗うことを習慣にしましょう。うがいもすれば、なお効果的です。

3. ふん、尿はすみやかに片づけましょう

ふんなどの排せつ物が乾燥すると、その中の病原体が空気中に舞い散り、吸い込みやすくなります。排せつ物は速やかに片づけ、終了後は手を洗いましょう。砂場や公園で遊んだあとは、動物の排せつ物を触った可能性があるので必ず手を洗いましょう。



4. 室内の換気を心がけましょう

締め切った室内では、抜け毛、羽毛、乾燥した排せつ物が充満しやすくなります。特に室内で鳥を飼育するときはこまめに換気をしましょう。ペットやペットの身の回りを清潔に保つことも大切です。

5. 咬まれたときや、動物由来感染症にかかったかな?と思ったときは



動物に咬まれたり、血が出るほどひっかかれたりしたときは、まずは傷口をしっかりと流水で洗います。傷が深い場合や、知らない動物に咬まれた場合は、外科を受診しましょう。

乳幼児、高齢者や免疫状態が低下した人では重症化することもあります。具合が悪化したり、長引くときは病院で受診し、医師にペットがいることを伝えましょう。